

令和 6 年 5 月 17 日現在

機関番号：32686

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20H01249

研究課題名（和文）フランス・ロマン主義の歴史的展開についての研究 文学、政治、美学

研究課題名（英文）Study on the Historical Development of French Romanticism; literature, politics, aesthetics

研究代表者

菅谷 憲興 (Sugaya, Norioki)

立教大学・文学部・教授

研究者番号：50318680

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 11,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、日本におけるフランス文学研究の盲点となっているロマン主義に焦点を当て、その発展と変遷としてフランス十九世紀文学の総体を捉え直すことを目的とした。十九世紀前半と後半の断絶を強調する従来の文学史の見取り図を問いなおし、フローベールやボードレールといった第二帝政期（1852～1870）の作家に始まるとみなされてきた文学の「現代性（モデルニテ）」の萌芽が、世紀前半のロマン主義の中でいかに準備されてきたかを明らかにすべく努めた。海外の研究者を招いての国際シンポジウムや公開講演会の開催など、日仏両語で積極的に成果を発信することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ロマン主義は十九世紀前半のヨーロッパ全体を席卷した芸術思潮であるが、特にフランスにおいては、前世紀末に起こったフランス革命の影響により、他国に比べて政治性が強かったのが特徴である。文学と政治がいまだ不可分であるというその雑種性ゆえに、フランス・ロマン主義は二十世紀後半の先鋭的な批評からはしばしば軽視される傾向があったが、二十一世紀に入ってむしろそのハイブリッドな文学のあり方が注目されるようになっていく。本研究は、社会的動乱の中から生まれたフランス・ロマン主義の展開を精査することにより、混迷を極める現代社会にまで通じるその歴史的意義を探った。

研究成果の概要（英文）：This study focused on Romanticism, which has been a blind spot in the study of French literature in Japan, with the aim of reconsidering French 19th century literature as a whole in terms of its development and changes. We have tried to question the conventional view of literary history that emphasizes the disconnect between the first half and the second half of the 19th century, and to clarify how the budding of "modernity" in literature, which has been regarded as beginning with writers of the Second Empire (1852-1870) such as Flaubert and Baudelaire, was prepared in the Romanticism of the first half of the century. We were able to actively disseminate our results in both Japanese and French by holding international symposiums and public lectures inviting overseas researchers.

研究分野：フランス十九世紀文学

キーワード：ロマン主義 フランス文学 政治 美学 歴史 哲学 科学史 宗教史

### 1. 研究開始当初の背景

十九世紀フランス文学研究においては、従来、シャトーブリアン、スタール夫人、ラマルチーヌ、ヴィニーといった世紀前半のロマン主義は、フローベール、ボードレー、マラルメといった第二帝政期以降の作家たちに比べて、明らかに軽視されてきたといえる。ロマン主義最大の作家ヴィクトル・ユゴーについてさえ、研究は後期の小説『レ・ミゼラブル』(1862)に集中しており、その初期の詩作品や劇作品が同時代において持った決定的なインパクトはまだまだ十分な分析の対象となっていないとは言い難い。これはロマン主義研究が花形の分野であるイギリス文学やドイツ文学とは異なるフランス文学独自の事情であるが、これには主に二つの理由を挙げることができる。第一に、二十世紀後半のヌーヴェル・クリティックと呼ばれる先鋭的な批評が、「文学性」の名のもとに、十九世紀後半の文学を「現代性(モデルニテ)」の出発点と位置付けたこと。たとえばロラン・バルトが『零度のエクリチュール』(1953)において、バルザックとフローベールの間の切断を強調したことはその後の文学研究の方向性に強い影響を与えたといえる。第二に文学の政治性の問題であり、「芸術の自律性」を志向した第二帝政期以降の文学とは異なり、フランス革命後の混乱の中で誕生したロマン主義の文学は、しばしば明白に政治的であろうとする野心を隠さなかった。現代的な「文学性」の概念から見ると時代遅れに見えなくもないこのような特徴が、シャトーブリアンの『キリスト教精髄』(1802)や王党派時代の青年ユゴーの詩のような露骨にイデオロギー的な作品を、今日の読者にとって近づきにくいものにしていくことは否めない。ところで、おおむね二十一世紀に入ってから、とりわけフランスにおいて、このような見方を修正し、十九世紀文学全体をロマン主義の提起した諸問題の延長として把握しようという動きが出てきた。フランス・ロマン主義の再評価とも結びついたこのような最新の研究動向によれば、世紀後半のいわゆる現代性の文学も、ロマン主義との単なる切断としてではなく、むしろロマン主義自体に当初から内包されていた矛盾が徐々に顕在化していくプロセスとして理解すべきだということになる。言い換えれば、ロマン主義とポストロマン主義の複雑な関係性についての考察はまだまだ端緒にすぎないばかりであり、本研究もこのような流れに与するものである。

### 2. 研究の目的

(1) 本研究は、十九世紀のフランス文学史をロマン主義とその展開という視点から多角的に再検討することを目的とする。

(2) 特に中心的な課題として、文学と政治の関わりに歴史的観点から取り組むことになる。より具体的には、フランス・ロマン主義の最大の特徴である政治性・社会性が、いかなる必然性にもとづいて、第二帝政期の文学を特徴づける「芸術の自律性」の主張へと変化していったのかを跡付ける。七月革命(1830年)や二月革命(1848年)といった歴史的大事件の影響のみならず、ロマン主義文学と同時代に生み出された社会思想にかかわる多様な著作を検討することにより、政治の領域においても一定の存在感を示し、オピニオンリーダーとして振る舞うことのできたロマン主義世代の作家たちの後に、公共空間から意図的に距離を置き、「芸術のための芸術」を掲げるポストロマン主義世代が続いたことの歴史的意味を探る。

(3) 同時に、ポストロマン主義世代に特有の「純粋芸術」の理念が、実は他ならぬロマン主義世代の美学、たとえばユゴーやゲーテの芸術理論、さらには世紀前半のフランス哲学界に君臨したヴィクトル・クザンを経由したフィヒテ、ヘーゲルらドイツ観念論の思想などに多くを負っていることを解明する。実際、ロマン主義とポストロマン主義の関係は単線的な図式では捉えられない複合的なものであり、包括的に把握するためには、双方向からアプローチする必要がある。さらにそのためには、十九世紀の文脈を超えて、現代思想の側からロマン主義およびポストロマン主義を分析するのも有効な手段となる。

(4) ロマン主義文学に特有の雑種性について具体的に考察する。文学が政治的言説のみならず、宗教や哲学、さらには科学の言説と渾然一体となっていた時代の作品に光をあてることにより、二十世紀後半に特権視されていた狭義の「文学性」の概念を相対化し、あわせて現代における文学の役割について再検討することを目指す。

### 3. 研究の方法

(1) フランス革命期から第二帝政期までをカバーする射程の広い研究を遂行するため、本研究では、専門を異にする複数の研究者が緊密に協力しつつ、各人が自らの課題を掘り下げるといった形をとった。メンバーそれぞれが主に専門とする作家と本研究において担当した課題は以下の通りである。

菅谷(フローベール、全体の統括、ポストロマン主義の美学、科学文化)

片岡(シャトーブリアン、近代社会論、フランス・ロマン主義の日本における受容)

数森(ユゴー、教育思想、宗教思想)

真野（ミシュレ、ロマン主義の歴史記述、ジャーナリズム）

辻川（ネルヴァル、ゴッティエ、小ロマン派、大衆文学）

海老根（ボードレール、近代詩、美術批評）

中島（フローベール、宗教文化）

山崎（フローベール、哲学、美学思想）

（2）定期的に研究会を開くことにより、各人の研究成果を報告し、全員で討論する場を設けた。また適宜、本科研のメンバー以外の研究者を講師に呼び、研究の射程を広げることに努めた。講師として招聘したのは、十八世紀啓蒙思想の専門家、二十世紀哲学・現代思想の専門家、十九世紀の政治思想、哲学史、文化史の専門家など多岐にわたるが、いずれの回においても活発な議論を通じて本研究課題に対する理解を深めることができた。本研究の開始時がちょうど新型コロナウイルスの流行拡大と重なったこともあり、研究会は基本的にzoomを用いたオンライン形式で行い、4年間で計18回開催した。各回の発表者とテーマは以下の通りである。

2020.9.4 山崎敦「暗示と媒介 ポヴァリスムからブヴァールディスムへ」

2020.9.19 数森寛子「ヴィクトル・ユゴーにおける芸術の有用性の思想：『ウィリアム・シェイクスピア』（1864年）を中心として」

2020.12.12 菅谷憲興「フローベール：科学と美学」

2020.12.26 郷原佳以（東京大学）「ブランショとロマン主義」

2021.3.6 海老根龍介「統一と断片：ボードレールにおける美学と社会観」

2021.3.18 村松正隆（北海道大学）「19世紀フランスにおけるスピノザ受容と「哲学史」の書き換え」

2021.8.8 鈴木和彦（明治学院大学）「1830年代の反ロマン主義：デジレ・ニザール『頽廢期のラテン詩人の風俗および批評研究』から」

2021.9.18 辻川慶子「ネルヴァル・ファンテジスト ファンテジー、虚報、幻想」

2021.11.21 中島太郎「19世紀半ばにおける宗教知の変遷：フローベール、ルナン、ミシュレを中心に」

2022.1.8 畑浩一郎（聖心女子大学）「ギュスターヴ・フローベールの見たエジプト」

2022.3.12 澤田直（立教大学）、コメンテーター：鈴木啓二（東京大学）、山崎敦「サルトル『家の馬鹿息子』第3巻（邦訳第5巻、人文書院）をめぐって」

2022.8.5 平澤暢之（ギュスターヴ・エッフェル大学研究員）「十九世紀文学とリベラリズム フローベールを例に」

2022.9.3 金山準（北海道大学）「『ブルードン 反「絶対」の探求』（岩波書店）について」

2022.9.17 杉本圭子（明治学院大学）「スタンダールとロマン主義」

2022.12.26 片岡大右「加藤周一とロマン主義」

2023.7.29 坂本さやか（東京大学等非常勤講師）「ミシュレの自然史について 『鳥』を中心に」

2023.9.23 逸見龍生（新潟大学）「啓蒙と百科事典 『啓蒙思想の百科事典』（丸善出版）をめぐって」

2023.10.21 真野倫平「『アルベール・ロンドル 闘うリポーターの肖像』（水声社）をめぐって」

#### 4. 研究成果

（1）本研究は、近年再評価の進むフランス・ロマン主義に着目することにより、その発展と変遷として十九世紀フランス文学史を捉え直そうという試みである。実際の研究過程においては、各人がそれぞれ担当する課題に取り組み、研究会やメールなどを通じて定期的に意見交換しながら、個々の研究の成果については、論文・図書や研究発表などの形で随時公表していった。本研究期間における各メンバーの具体的な研究成果は以下の通りである。

（2）菅谷は、おもに科学と美学の二つの観点からフローベールとロマン主義の関係を考察し、その成果を海外の複数のシンポジウムにおいて報告するとともに、論文や図書の形にまとめた。特にロマン主義時代の医学におけるジェンダー規範の分析（雑誌論文「Flaubert et le discours médical sur la femme」）、フローベールとロマン主義科学の関係（図書『Flaubert dans son siècle』所収）、さらにフローベールの美学とヘーゲルの関係（図書『Flaubert en images』所収）などについての論考を発表した。

（3）真野は、ロマン主義の歴史について研究するとともに、歴史記述のスタイルやジャーナリズムのエクリチュールについて考察した。主要な成果としては、ミシュレに関する分析（図書『フローベール 文学と現代性の行方』所収、雑誌論文「Michelet et l'historiographie romantique」）、歴史記述に関する理論的考察（雑誌論文「歴史におけるフィクションの役割」、雑誌論文「歴史家が自己を省みるとき」）、ジャーナリストのロンドルに関する論考（図書『アルベール・ロンドル』、雑誌論文「Albert Londres au Japon」）などを公刊した。

（4）海老根は、おもにボードレールの詩学と美術批評を対象として、ポストロマン主義の美学に見られるロマン主義的要素の再検討を行い、その成果を国際シンポジウムで報告するとともに、複数の学術論文にまとめた。「社会的調和」や「靈感」、「無限」といったロマン主義に親和的な概念が、ポストロマン主義の根底にある「群衆」と「孤独」の問題や（雑誌論文「L'esthétique

de la foule chez le dernier Baudelaire」)、芸術の自律性の主張(雑誌論文「Unité et fragmentation chez Baudelaire」)とどう関連づけられるか考察する一方で、19世紀における芸術の有限性の意識を倫理性的の観点から分析した(図書『日常の中の聖性』所収)。

(5)中島は、主にフローベールの宗教的表象及び思想を歴史と宗教の観点から読み解き、その成果を国内外のシンポジウムで報告した。宗教批判(反教権主義)を19世紀の世俗化の流れに照らして読み解き(図書『Flaubert dans son siècle』所収)、『聖アントワーヌの誘惑』におけるインドの神々の表象をロマン主義思想との関連で考察した(雑誌論文「La Tentation de saint Antoine et la pensée romantique」)、さらにフローベールとイスラームについての論考を海外の学術雑誌に発表した(雑誌論文「Les sept fils du derviche; Voyage en Egypte; Correspondance; Voyage en Algérie et en Tunisie; Salammbô; La Tentation de saint Antoine」)。

(6)辻川は、主にネルヴァルの宗教思想や歴史記述を、同時代の思想史および大衆メディア上の表象という二者を通じて分析した。その成果を国内外の複数の学会およびシンポジウムにおいて報告し、ロマン主義時代における大衆的メディアと想像力(雑誌論文「Nerval : “ dans l'art rien n'est frivole ”」)、ゴッティエやネルヴァールと同時代の思潮(図書『死霊の恋/化身』所収)、レチフ・ド・ラ・ブルトンヌ再評価(雑誌論文「Nerval et Retif de la Bretonne」)、文芸事象の歴史(図書『GRIHL』所収)などについての論考を発表した。

(7)山崎は、おもに哲学および美学思想の観点からフローベールとロマン主義の関係を考察し、その成果を海外の複数のシンポジウムにおいて報告するとともに、論文や図書の形にまとめた。『ブヴァールとペキュシェ』を主たる分析対象として、フローベール文学と哲学言説(哲学事典)との関係(雑誌論文「“Mais nous allons tomber dans l'abîme effrayant du scepticisme”」)、折衷主義哲学との関係(図書『Flaubert dans son siècle』所収)、さらに崇高・ピクチャレスク美学との関係(図書『Flaubert en images』所収)などについての論考を発表した。

(8)片岡は、20世紀におけるロマン主義受容の観点からサント＝ブーヴを論じる一方で(学会発表「20世紀のロマン主義論から見たサント＝ブーヴとシャトーブリアン」)、P・ベニシュエーや渡辺一夫の仕事との関係でセナンクールを読み解いた(雑誌論文「Le roman épistolaire et l'expérience de la hauteur」)、また、ロマン主義的近代の射程の再検討という背景のもと、古井由吉(図書『古井由吉』所収)・加藤周一(図書『加藤周一を21世紀に引き継ぐために』所収)といった日本の作家・知識人や米国の人類学者D・グレーバー(雑誌論文「未来を開く デヴィッド・グレーバーを読む」)を論じ、さらには批評/批判の現代的意義の探究(図書『批評と生きること』)を企てた。

(9)数森は、おもに宗教および美学思想の観点から、十九世紀後半の時代におけるユゴーの宗教・神秘主義思想とロマン主義理論の展開を考察し、その成果を研究会と複数の国際シンポジウムにおいて報告するとともに、論文の形にまとめた。第二共和政期の宗教と教育の問題(雑誌論文「フランス第二共和政期における「教育の自由」をめぐる議論」)、第二帝政期におけるユゴーとスピリティズムとの関係(雑誌論文「フランス第二帝政期における降霊術の流行」)などについての論考を発表した。

(10)最後に国際共同研究に関して言えば、本科研を用いて、令和4年度と令和5年度に公開講演会を一度ずつ、また令和4年度には(令和3年度分の科研費を繰越で使用)大規模な国際シンポジウムを開催した。まず2023年2月18日に白百合女子大学で行われた公開講演会では、レチフ・ド・ラ・ブルトンヌの専門家であるフランソワーズ・ル・ボルニュ氏を招き、十八世紀末のこの特異な作家がロマン主義に与えた影響についてお話しいただいた。次に2024年1月20日に立教大学で催したクレール・バレレ=モワザン氏の公開講演会においては、十九世紀前半に生まれた大衆文学というジャンルに焦点をあてることにより、ロマン主義の知られざる一側面を炙り出すことに成功した。さらに2023年3月7日・8日・10日の三日間、立教大学と中京大学で開催した国際シンポジウムにおいては、フランスとアメリカから5名の外国人研究者を招聘し、「ロマン主義と第二帝政期の文学」という本研究の根幹にかかわるテーマについて活発な議論を交わすことができた。ちなみにこの国際シンポジウムの成果は、フランス国立科学研究センター(CNRS)の学術雑誌のひとつ『Revue critique et génétique』に特集号として掲載されることが決定しており、この機会を用いて本科研の学術的意義を国際的に発信していきたい。全体として、発表した業績の数から見ても、四年間という限られた期間のうちに十分な成果をあげることができたと自負している。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計60件（うち査読付論文 34件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 44件）

1. 著者名 Norioki Sugaya	4. 巻 57
2. 論文標題 Compte rendu : Atsushi Yamazaki, Bouvard et Pecuchet, roman philosophique. Une archeologie comique des idees au XIXe siecle	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Genesis	6. 最初と最後の頁 206-208
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4000/genesis.9067	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 数森 寛子	4. 巻 53
2. 論文標題 フランス第二帝政期における降霊術の流行	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 愛知県立芸術大学紀要	6. 最初と最後の頁 21 ~ 29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34476/0002000044	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Taro Nakajima	4. 巻 21
2. 論文標題 Les sept fils du derviche; Voyage en Egypte; Correspondance; Voyage en Algerie et en Tunisie; Salambo; La Tentation de saint Antoine	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Christian-Muslim Relations 1500-1900. A Bibliographical History	6. 最初と最後の頁 358-372
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1163/2451-9537_cmrii_COM_33534	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Keiko Tsujikawa	4. 巻 55
2. 論文標題 Nerval et Retif de la Bretonne : genealogie, theatralite et materiau onirique	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Etudes retiviennes	6. 最初と最後の頁 71-92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 辻川慶子	4. 巻 24
2. 論文標題 公開講演会報告「レチフ・ド・ラ・ブルトンヌとロマン主義作家」(2023年2月18日開催)	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 言語・文学研究論集	6. 最初と最後の頁 59-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Rimpei Mano	4. 巻 30
2. 論文標題 Albert Londres au Japon : la rencontre des journalistes francais et japonais dans les annees 1920	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 南山大学ヨーロッパ研究センター報	6. 最初と最後の頁 17-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 片岡大右	4. 巻 45(11)
2. 論文標題 「anarchic romanticism of youth」のあとで 小山田圭吾という芸術家の「炎上」をめぐる考察	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 すばる	6. 最初と最後の頁 132-156
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shiguehiko Hasumi	4. 巻 32
2. 論文標題 “La prose est nee d’hier”	5. 発行年 2025年
3. 雑誌名 Flaubert. Revue critique et genetique	6. 最初と最後の頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Jacques Neefs	4. 巻 32
2. 論文標題 " L'enterrement du romantisme "	5. 発行年 2025年
3. 雑誌名 Flaubert. Revue critique et genetique	6. 最初と最後の頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Makoto Tominari	4. 巻 32
2. 論文標題 Baudelaire et l'art religieux	5. 発行年 2025年
3. 雑誌名 Flaubert. Revue critique et genetique	6. 最初と最後の頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ryusuke Ebine	4. 巻 32
2. 論文標題 Unite et fragmentation chez Baudelaire	5. 発行年 2025年
3. 雑誌名 Flaubert. Revue critique et genetique	6. 最初と最後の頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Keiji Suzuki	4. 巻 32
2. 論文標題 A propos de "La Rancon" : essai d'analyse du raisonnement d'un "socialisme mitige"	5. 発行年 2025年
3. 雑誌名 Flaubert. Revue critique et genetique	6. 最初と最後の頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Philippe Dufour	4. 巻 32
2. 論文標題 La bande sonore du Spleen de Paris	5. 発行年 2025年
3. 雑誌名 Flaubert. Revue critique et genetique	6. 最初と最後の頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Daisuke Kataoka	4. 巻 32
2. 論文標題 Le romantisme chez Paul Benichou	5. 発行年 2025年
3. 雑誌名 Flaubert. Revue critique et genetique	6. 最初と最後の頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sayaka Sakamoto	4. 巻 32
2. 論文標題 Quelques echos de Virgile chez Michelet. Du Banquet a L'Oiseau	5. 発行年 2025年
3. 雑誌名 Flaubert. Revue critique et genetique	6. 最初と最後の頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Juliette Azoulai	4. 巻 32
2. 論文標題 Generation spontanee : un theme romantique sous le Second Empire	5. 発行年 2025年
3. 雑誌名 Flaubert. Revue critique et genetique	6. 最初と最後の頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nobuyuki Hirasawa	4. 巻 32
2. 論文標題 Les metamorphoses de Satan : Flaubert et la figure romantique du "revolte"	5. 発行年 2025年
3. 雑誌名 Flaubert. Revue critique et genetique	6. 最初と最後の頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Atsuko Ogane	4. 巻 32
2. 論文標題 De la confession a la fiction dans Novembre de Flaubert	5. 発行年 2025年
3. 雑誌名 Flaubert. Revue critique et genetique	6. 最初と最後の頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Florence Vatan	4. 巻 32
2. 論文標題 A chacun ses chimeres : Flaubert et Baudelaire	5. 発行年 2025年
3. 雑誌名 Flaubert. Revue critique et genetique	6. 最初と最後の頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yujin Morimoto	4. 巻 33
2. 論文標題 Discours feministe dans L' Education sentimentale de Flaubert	5. 発行年 2025年
3. 雑誌名 Flaubert. Revue critique et genetique	6. 最初と最後の頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takashi Kinouchi	4. 巻 33
2. 論文標題 Flaubert, Michelet et les deux revolutions	5. 発行年 2025年
3. 雑誌名 Flaubert. Revue critique et genetique	6. 最初と最後の頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Mitsumasa Wada	4. 巻 33
2. 論文標題 Le moment sentimental de Fontainebleau	5. 発行年 2025年
3. 雑誌名 Flaubert. Revue critique et genetique	6. 最初と最後の頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kazuhiro Matsuzawa	4. 巻 33
2. 論文標題 Avatars du romantisme : L'Envers de l'histoire contemporaine de Balzac et L'Education sentimentale de Flaubert	5. 発行年 2025年
3. 雑誌名 Flaubert. Revue critique et genetique	6. 最初と最後の頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hiroko Kazumori	4. 巻 33
2. 論文標題 L'esthetique de la reverie : lire Promontorium somnii de Victor Hugo	5. 発行年 2025年
3. 雑誌名 Flaubert. Revue critique et genetique	6. 最初と最後の頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Rimpei Mano	4. 巻 33
2. 論文標題 Michelet et l' historiographie romantique	5. 発行年 2025年
3. 雑誌名 Flaubert. Revue critique et genetique	6. 最初と最後の頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Keiko Tsujikawa	4. 巻 33
2. 論文標題 Nerval : " dans l' art rien n' est frivole "	5. 発行年 2025年
3. 雑誌名 Flaubert. Revue critique et genetique	6. 最初と最後の頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Taro Nakajima	4. 巻 33
2. 論文標題 La Tentation de saint Antoine et la pensee romantique : autour des dieux monstrueux de l' Orient	5. 発行年 2025年
3. 雑誌名 Flaubert. Revue critique et genetique	6. 最初と最後の頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Atsushi Yamazaki	4. 巻 33
2. 論文標題 Tempetes et orages chez Flaubert	5. 発行年 2025年
3. 雑誌名 Flaubert. Revue critique et genetique	6. 最初と最後の頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Norioki Sugaya	4. 巻 33
2. 論文標題 Egalite, comique, modernite	5. 発行年 2025年
3. 雑誌名 Flaubert. Revue critique et genetique	6. 最初と最後の頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Gisele Seginger	4. 巻 33
2. 論文標題 La passion de la couleur. Flaubert et l'ethos romantique	5. 発行年 2025年
3. 雑誌名 Flaubert. Revue critique et genetique	6. 最初と最後の頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 菅谷 憲興	4. 巻 3454
2. 論文標題 近世フランスの公証人が体現する社会性 ニコル・ルメートル『村の公証人』書評	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 週刊読書人	6. 最初と最後の頁 3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Norioki Sugaya	4. 巻 52
2. 論文標題 Flaubert et le discours medical sur la femme	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 立教大学フランス文学	6. 最初と最後の頁 19-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 菅谷 憲興	4. 巻 31
2. 論文標題 文芸事象の歴史研究会編、『GRIHL 文学に働く力、文学が発する力』書評	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 cahier	6. 最初と最後の頁 29-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山崎 敦	4. 巻 31
2. 論文標題 ジャン - ポール・サルトル (著) 『家の馬鹿息子 ギュスターヴ・フローベール論 (1821 年より 1857 年まで)』書評	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 cahier	6. 最初と最後の頁 32-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Rimpei Mano	4. 巻 21
2. 論文標題 Le theatre du Grand-Guignol et l'esthetique du feminicide	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Criminocorpus, revue hypermedia	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4000/criminocorpus.12371	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 片岡 大右	4. 巻 77(7)
2. 論文標題 アジアの複数性をめぐる問い 加藤周一、ホー・ツーニエン、ユク・ホイの仕事をめぐる	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 群像	6. 最初と最後の頁 90-110
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Daisuke Kataoka	4. 巻 53
2. 論文標題 Le roman epistolaire et l'experience de la hauteur : a propos d'Oberman de Senancour	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 ZINBUN	6. 最初と最後の頁 75-85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 澤田直、菅谷憲興	4. 巻 3430
2. 論文標題 想像力の子供が読む神経症としての文学 サルトル『家の馬鹿息子 ギュスターヴ・フローベール論』 (全五巻、人文書院) 邦訳完結を機に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 週刊読書人	6. 最初と最後の頁 1, 2, 7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Atsushi Yamazaki	4. 巻 19
2. 論文標題 "Mais nous allons tomber dans l'abime effrayant du scepticisme" : relire l'episode philosophique de Bouvard et Pecuchet a la lumiere du Dictionnaire des sciences philosophiques	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Revue Flaubert	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 海老根 龍介	4. 巻 55
2. 論文標題 呼び戻される幼年期 : ボードレール「玩具のモラル」をめぐって	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 仏語仏文学研究	6. 最初と最後の頁 151 ~ 162
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15083/0002003837	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 海老根 龍介	4. 巻 53
2. 論文標題 『新しさ』と『古さ』をめぐる言説 日本におけるボードレール死後100年	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 季刊 びーぐる	6. 最初と最後の頁 32-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 真野 倫平	4. 巻 28
2. 論文標題 歴史家が自己を省みるとき : プシュロン『歴史家を職業とする』、ヴネール『失踪者 シルヴァン・ヴネールに関する調査』について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 南山大学 ヨーロッパ研究センター報 = Bulletin of the Nanzan Center for European Studies	6. 最初と最後の頁 1~11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15119/00003962	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 片岡 大右	4. 巻 3388
2. 論文標題 マキアヴェッリの精神とフェミニズムのモチーフ 奇妙な国際ベストセラー ジョージ・R・R・マーティン『炎と血』書評	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 週刊読書人	6. 最初と最後の頁 5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 デヴィッド・グレーバー、ブライアン・イーノ、片岡 大右	4. 巻 3
2. 論文標題 クソどうでもよくない仕事を求めて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 tattva	6. 最初と最後の頁 110-129
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 片岡 大右	4. 巻 49(12)
2. 論文標題 デヴィッド・グレーバーの人類学と進化論	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 108-113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Norioki Sugaya	4. 巻 24
2. 論文標題 Reflexion sur l'indécidable flaubertien : a partir de la traduction de Bouvard et Pecuchet en japonais	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Flaubert. Revue critique et genetique	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 菅谷 憲興	4. 巻 3353
2. 論文標題 死後も続けられる生の伝記 イヴァン・ジャブロンカ 『歴史家と少女殺人事件』書評	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 週刊読書人	6. 最初と最後の頁 5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 菅谷 憲興	4. 巻 3373
2. 論文標題 民主主義の時代における文学の困難 アントワーン・コンパニオン 『文学史の誕生』書評	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 週刊読書人	6. 最初と最後の頁 3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 菅谷 憲興	4. 巻 50
2. 論文標題 ロマン主義時代の生命観 : ジョン・ブラウンとドイツ・ロマン派	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 立教大学フランス文学	6. 最初と最後の頁 19 ~ 32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14992/00021598	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Atsushi Yamazaki	4. 巻 24
2. 論文標題 Suggestion et mediation : du bovarysme au bouvardisme	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Flaubert. Revue critique et genetique	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ryusuke Ebine	4. 巻 23
2. 論文標題 L' esthetique de la foule chez le dernier Baudelaire	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 L' Annee Baudelaire	6. 最初と最後の頁 147-157
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 真野 倫平	4. 巻 27
2. 論文標題 歴史におけるフィクションの役割 : コルバン 『知識欲の誕生』、ヴネール、ブシュロン 『条件法の歴史』 について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 南山大学 ヨーロッパ研究センター報 = Bulletin of the Nanzan Center for European Studies	6. 最初と最後の頁 13 ~ 23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15119/00003095	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 辻川 慶子	4. 巻 26
2. 論文標題 宮川朗子・安川孝・市川裕史(著)『フランス大衆小説研究の現在』、広島大学出版会、2019年書評	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 cahier	6. 最初と最後の頁 3-4
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 数森 寛子	4. 巻 50
2. 論文標題 フランス第二共和政期における「教育の自由」をめぐる議論：ヴィクトル・ユゴーによるファルー法反対演説(2)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 愛知県立芸術大学紀要	6. 最初と最後の頁 3-14
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 スラヴォイ・ジジック、片岡 大右	4. 巻 933
2. 論文標題 人間の顔をした野蛮がわたしたちの宿命なのか コロナ下の世界	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 世界	6. 最初と最後の頁 38-45
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 片岡 大右	4. 巻 3344
2. 論文標題 「世界を革命する力」はどこにあるのか 松田青子『持続可能な魂の利用』書評	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 週刊読書人	6. 最初と最後の頁 2
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 片岡 大右	4. 巻 75 (9)
2. 論文標題 未来を開く デヴィッド・グレーバーを読む	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 群像	6. 最初と最後の頁 331-345
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 片岡 大右	4. 巻 3467
2. 論文標題 懐疑的に、けれど「とりあえず信じること」 デヴィッド・グレーバーの死に寄せて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 図書新聞	6. 最初と最後の頁 3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 片岡 大右	4. 巻 75(11)
2. 論文標題 「神秘的な、楽しい未来」に向けて デヴィッド・グレーバーを読み続けるために	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 群像	6. 最初と最後の頁 226-243
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計51件 (うち招待講演 15件 / うち国際学会 40件)

1. 発表者名 Norioki Sugaya
2. 発表標題 Pantheisme et esprit du mal -- Flaubert contre Baudelaire
3. 学会等名 Journee d' etudes "Litterature et Pantheisme" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Atsushi Yamazaki
2. 発表標題 Introduction -- Litterature et Pantheisme
3. 学会等名 Journee d' etudes "Litterature et Pantheisme" (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Hiroko Kazumori
2. 発表標題 Victor Hugo et la vision pantheiste
3. 学会等名 Journee d' etudes "Litterature et Pantheisme" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Rimpei Mano
2. 発表標題 Albert Londres au Japon
3. 学会等名 Les Rencontres Albert Londres 14e edition (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 片岡大右
2. 発表標題 19世紀フランスにおける福音的平等と社会問題
3. 学会等名 研究会「19世紀フランスの政治と宗教」(招待講演)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Claire Barel-Moisan, Keiko Tsujikawa
2. 発表標題 1840/1880 : le roman entre litterature populaire et culture mediatique
3. 学会等名 Conference "1840/1880 : le roman entre litterature populaire et culture mediatique" (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Norioki Sugaya
2. 発表標題 Flaubert, Hegel et la peinture hollandaise
3. 学会等名 Colloque international "Flaubert en image" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Atsushi Yamazaki
2. 発表標題 Le pittoresque dans Bouvard et Pecuchet
3. 学会等名 Colloque international "Flaubert en image" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 海老根 龍介
2. 発表標題 日本におけるボードレール
3. 学会等名 日仏シンポジウム「ボードレール - 詩と芸術 - 芸術照応の魅惑 5」(招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 真野 倫平
2. 発表標題 Le theatre du Grand-Guignol et l'esthetique du feminicide
3. 学会等名 日本フランス語フランス文学会2022年度秋季大会・ワークショップ「La litterature et le feminicide」(国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Keiko Tsujikawa
2. 発表標題 Nerval et Retif de La Bretonne : genealogie, theatralite et materiau onirique
3. 学会等名 Colloque international franco-japonais : "Les revies de Retif de la Bretonne : Subjectivites, Genealogies, Morales" (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Daisuke Kataoka
2. 発表標題 Le roman epistolaire et l'experience de la hauteur : a propos d'Oberman de Senancour
3. 学会等名 Colloque international "Les belles lettres dangereuses : le destin de l'epistolarite litteraire du XVIIe au XIXe siecle" (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 片岡 大右
2. 発表標題 「分裂生成」をどうするか デヴィッド・グレーバーと加藤周一から出発して
3. 学会等名 シンポジウム「これからの民主主義を考える」(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 片岡大右
2. 発表標題 20世紀のロマン主義論から見たサント＝ブーヴとシャトーブリアン
3. 学会等名 日本フランス語フランス文学会2022年度秋季大会・ワークショップ「サント＝ブヴィアーナ：作家研究からサント＝ブーヴ像を再構築する」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 片岡 大右
2. 発表標題 「anarchic romanticism of youth」のあとで
3. 学会等名 『小山田圭吾の「いじめ」はいかにつくられたか 現代の災い「インフォデミック」を考える』刊行記念シンポジウム
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Francoise Le Borgne, Kosei Ogura
2. 発表標題 Retif de la Bretonne et la posterite romantique : George Sand, Dumas, Nerval, Eugene Sue
3. 学会等名 Conference "Retif de la Bretonne et la posterite romantique : George Sand, Dumas, Nerval, Eugene Sue" (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Norioki Sugaya
2. 発表標題 Flaubert et le discours medical sur la femme
3. 学会等名 Colloque international "Genre et sexualite dans l'oeuvre de Gustave Flaubert" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Norioki Sugaya
2. 発表標題 Egalite, comique, modernite
3. 学会等名 Colloque international "Le romantisme et la litterature du Second Empire" (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Atsushi Yamazaki
2. 発表標題 Tempetes et orages chez Flaubert
3. 学会等名 Colloque international "Le romantisme et la litterature du Second Empire" (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 海老根 龍介
2. 発表標題 日本におけるボードレール死後100年 - 『古さ』と『新しさ』をめぐる言説
3. 学会等名 日本フランス語フランス文学会2021年度春季大会・ワークショップ「ボードレール(から)の越境」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Ryusuke Ebine
2. 発表標題 Unite et fragmentation chez Baudelaire
3. 学会等名 Colloque international "Le romantisme et la litterature du Second Empire" (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Rimpei Mano
2. 発表標題 Michelet et l'historiographie romantique
3. 学会等名 Colloque international "Le romantisme et la litterature du Second Empire" (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中島 太郎
2. 発表標題 宗教と科学：『サランボー』のオリエントの神をめぐって
3. 学会等名 日本フランス語フランス文学会2021年度春季大会・ワークショップ「生誕200年フローベールを読み直す」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Taro Nakajima
2. 発表標題 La Tentation de saint Antoine et la pensee romantique : autour des dieux monstrueux de l'Orient
3. 学会等名 Colloque international "Le romantisme et la litterature du Second Empire" (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 辻川 慶子
2. 発表標題 ワークショップ「Temoignage(s) de litterature ; 文学は何を証言するか?」
3. 学会等名 日本フランス語フランス文学会2021年度秋季大会 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Keiko Tsujikawa
2. 発表標題 Nerval : "dans l'art rien n'est frivole"
3. 学会等名 Colloque international "Le romantisme et la litterature du Second Empire" (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Hiroko Kazumori
2. 発表標題 L'esthetique de la reverie : lire Promontorium somnii de Victor Hugo
3. 学会等名 Colloque international "Le romantisme et la litterature du Second Empire" (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Daisuke Kataoka
2. 発表標題 Le romantisme chez Paul Benichou
3. 学会等名 Colloque international "Le romantisme et la litterature du Second Empire" (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Shigehiko Hasumi
2. 発表標題 "La prose est nee d'hier"
3. 学会等名 Colloque international "Le romantisme et la litterature du Second Empire" (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Jacques Neefs
2. 発表標題 "L'enterrement du romantisme"
3. 学会等名 Colloque international "Le romantisme et la litterature du Second Empire" (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Keiji Suzuki
2. 発表標題 A propos de "La Rancon" : essai d'analyse du raisonnement d'un "socialisme mitige"
3. 学会等名 Colloque international "Le romantisme et la litterature du Second Empire" (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Philippe Dufour
2. 発表標題 La bande sonore du Spleen de Paris
3. 学会等名 Colloque international "Le romantisme et la litterature du Second Empire" (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Sayaka Sakamoto
2. 発表標題 Quelques echos de Virgile chez Michelet. Du Banquet a L'Oiseau
3. 学会等名 Colloque international "Le romantisme et la litterature du Second Empire" (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Juliette Azoulai
2. 発表標題 Generation spontanee : un theme romantique sous le Second Empire
3. 学会等名 Colloque international "Le romantisme et la litterature du Second Empire" (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Nobuyuki Hirasawa
2. 発表標題 Les metamorphoses de Satan : Flaubert et la figure romantique du revolte
3. 学会等名 Colloque international "Le romantisme et la litterature du Second Empire" (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Atsuko Ogane
2. 発表標題 De la confession a la fiction dans Novembre de Flaubert
3. 学会等名 Colloque international "Le romantisme et la litterature du Second Empire" (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Florence Vatan
2. 発表標題 A chacun ses chimeres : Flaubert et Baudelaire
3. 学会等名 Colloque international "Le romantisme et la litterature du Second Empire" (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Takashi Kinouchi
2. 発表標題 Flaubert, Michelet et les deux revolutions
3. 学会等名 Colloque international "Le romantisme et la litterature du Second Empire" (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Mitsumasa Wada
2. 発表標題 Le moment sentimental de Fontainebleau
3. 学会等名 Colloque international "Le romantisme et la litterature du Second Empire" (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kazuhiro Matsuzawa
2. 発表標題 Avatars du romantisme : L'Envers de l'histoire contemporaine de Balzac et l'Eduction sentimentale de Flaubert
3. 学会等名 Colloque international "Le romantisme et la litterature du Second Empire" (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Gisele Seginger
2. 発表標題 La passion de la couleur. Flaubert et l'ethos romantique
3. 学会等名 Colloque international "Le romantisme et la litterature du Second Empire" (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Yujin Morimoto
2. 発表標題 Discours feministe dans L' Education sentimentale de Flaubert
3. 学会等名 Demi-journee d'etude "Flaubert et Baudelaire" (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Makoto Tominari
2. 発表標題 Baudelaire et l' art religieux
3. 学会等名 Demi-journee d'etude "Flaubert et Baudelaire" (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Norioki Sugaya
2. 発表標題 Flaubert et la science romantique
3. 学会等名 Colloque international "Flaubert dans son siecle" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山崎 敦
2. 発表標題 フローベールとスピノザ 『ブヴァールとペキュシェ』をめぐって
3. 学会等名 「二つのスピノザ・ルネッサンスの狭間 十九世紀フランス哲学におけるスピノザの影」(基盤研究B)第9回研究会(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山崎 敦
2. 発表標題 フローベールとスピノザ 『聖アントワーヌの誘惑』をめぐって
3. 学会等名 スピノザ協会2020年度総会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Atsushi Yamazaki
2. 発表標題 Flaubert et l'eclectisme
3. 学会等名 Colloque international "Flaubert dans son siecle"（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 真野 倫平
2. 発表標題 現代フランス歴史学の一傾向
3. 学会等名 日本フランス語フランス文学会2020年度秋季大会・ワークショップ「文学と歴史（学）の関係を問い直す」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Taro Nakajima
2. 発表標題 L'anticlericalisme de Flaubert et l'idee laique au XIXe siecle
3. 学会等名 Colloque international "Flaubert dans son siecle"（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 辻川 慶子
2. 発表標題 ネルヴァルとレチフ・ド・ラ・ブルトンヌ
3. 学会等名 レチフ研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 辻川 慶子
2. 発表標題 ネルヴァルと集合性の夢 ロマン主義時代における作家の表象と集合的エクリチュール
3. 学会等名 文芸事象の歴史研究会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計23件

1. 著者名 Philippe Dufour, Gisele Seginger, Norioki Sugaya, Atsushi Yamazaki, Taro Nakajima,	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Hermann	5. 総ページ数 362
3. 書名 Flaubert dans son siecle	

1. 著者名 Gisele Seginger, Juliette Azoulai, Philippe Dufour, Norioki Sugaya, Atsushi Yamazaki	4. 発行年 2024年
2. 出版社 Hermann	5. 総ページ数 399
3. 書名 Flaubert en images	

1. 著者名 テオフィル・ゴーティエ、永田千奈訳、辻川慶子	4. 発行年 2023年
2. 出版社 光文社古典新訳文庫	5. 総ページ数 400
3. 書名 死霊の恋 / 化身 ゴーティエ恋愛奇譚集	

1. 著者名 クロード・ピショワ、ミシェル・ブリックス、田口亜紀、辻川慶子、畑浩一郎	4. 発行年 2024年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 528
3. 書名 ネルヴァル伝	

1. 著者名 片岡大右	4. 発行年 2023年
2. 出版社 晶文社	5. 総ページ数 408
3. 書名 批評と生きること : 「十番目のミューズ」の未来	

1. 著者名 宇野重規、伊達聖伸、高山裕二、片岡大右	4. 発行年 2024年
2. 出版社 白水社	5. 総ページ数 332
3. 書名 フランス知と戦後日本 対比思想史の試み	

1. 著者名 Atsushi Yamazaki	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Presses universitaires de Vincennes	5. 総ページ数 288
3. 書名 Bouvard et Pecuchet, roman philosophique. Une archeologie comique des idées au XIXe siècle	

1. 著者名 海老根龍介、中地義和、アントワーヌ・コンパニオン、三浦篤、吉田典子、ジャン＝リュック・ステンメッツ、アンドレア・スケリーノ、オーレリア・セルヴォーニ、アンリ・セッピ、吉村和明、畠山達、鈴木和彦、岩切正一郎、鈴木啓二、富成信、平野啓一郎、中島淑恵、松浦寿輝、アンドレ・ギュイヨール、	4. 発行年 2023年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 351
3. 書名 ボードレール 詩と芸術	

1. 著者名 真野倫平	4. 発行年 2023年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 384
3. 書名 アルペール・ロンドル	

1. 著者名 片岡 大右	4. 発行年 2023年
2. 出版社 集英社	5. 総ページ数 272
3. 書名 小山田圭吾の「いじめ」はいかにつくられたか 現代の災い「インフォデミック」を考える	

1. 著者名 宮谷憲興、山崎敦、中島太郎、真野倫平、松澤和宏、小倉孝誠	4. 発行年 2021年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 403
3. 書名 フローベール 文学と 現代性 の行方	

1. 著者名 Norioki Sugaya, Yvan Leclerc, Catherine Hubbard, Anne-Benedicte Levollant	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Editions des Falaises	5. 総ページ数 224
3. 書名 Gustave Flaubert La Fabrique de l'oeuvre. Les manuscrits de Flaubert a la bibliotheque de Rouen	

1. 著者名 Taro Nakajima	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Presses universitaires de Strasbourg	5. 総ページ数 287
3. 書名 Entre croyance et savoir. Les Figures religieuses de Flaubert	

1. 著者名 辻川 慶子、永井 敦子、畠山 達、黒岩 卓	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 258
3. 書名 フランス文学の楽しみかた	

1. 著者名 文芸事象の歴史研究会、辻川 慶子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 吉田書店	5. 総ページ数 304
3. 書名 GRIHL 文学に働く力、文学が発する力	

1. 著者名 片岡 大右、鷲巢力、岩津航、半田 侑子、澤田直、三浦信孝、猪原透、翁家慧、金子元、加國尚	4. 発行年 2022年
2. 出版社 立命館大学 加藤周一現代思想研究センター	5. 総ページ数 83
3. 書名 『加藤周一を21世紀に引き継ぐために』合評会記録	

1. 著者名 山崎 敦、上野 修、杉山 直樹、村松 正隆	4. 発行年 2021年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 354
3. 書名 スピノザと十九世紀フランス	

1. 著者名 海老根龍介、釘宮明美、海老原晴香、石井雅之、岩政伸治、今村純子、福田耕介、稲葉景、上田圭委子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 教友社	5. 総ページ数 205
3. 書名 日常の中の聖性	

1. 著者名 横浜国立大学都市科学部、海老根龍介	4. 発行年 2021年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 1052
3. 書名 都市科学事典	

1. 著者名 イヴァン・ジャブロンカ、真野 倫平	4. 発行年 2020年
2. 出版社 名古屋大学出版会	5. 総ページ数 400
3. 書名 歴史家と少女殺人事件	

1. 著者名 デヴィッド・グレーバー、片岡 大右	4. 発行年 2020年
2. 出版社 以文社	5. 総ページ数 192
3. 書名 民主主義の非西洋起源について	

1. 著者名 河出書房新社編集部、片岡 大右	4. 発行年 2020年
2. 出版社 河出書房新社	5. 総ページ数 288
3. 書名 古井由吉	

1. 著者名 三浦信孝、鷲巣力、片岡 大右	4. 発行年 2020年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 456
3. 書名 加藤周一を21世紀に引き継ぐために	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>公開講演会「レチフ・ド・ラ・ブルトンヌとロマン主義作家」案内  <a href="https://www.sjllf.org/plugin/blogs/show/10/71/914#frame-71">https://www.sjllf.org/plugin/blogs/show/10/71/914#frame-71</a>          国際シンポジウム「ロマン主義と第二帝政期の文学」プログラム  <a href="https://www.sjllf.org/plugin/blogs/show/10/71/916#frame-71">https://www.sjllf.org/plugin/blogs/show/10/71/916#frame-71</a>          公開講演会「1840年から1880年へ 大衆文学とメディア文化の間の小説」案内  <a href="https://www.sjllf.org/plugin/blogs/show/10/71/1516#frame-71">https://www.sjllf.org/plugin/blogs/show/10/71/1516#frame-71</a></p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	数森 寛子 (Kazumori Hiroko) (10588239)	愛知県立芸術大学・美術学部・准教授  (23902)	
研究分担者	真野 倫平 (Mano Rimpei) (30257232)	南山大学・外国語学部・教授  (33917)	
研究分担者	片岡 大右 (Kataoka Daisuke) (30600225)	慶應義塾大学・商学部(日吉)・講師(非常勤)  (32612)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	海老根 龍介 (Ebine Ryusuke) (40439500)	白百合女子大学・文学部・教授  (32627)	
研究分担者	山崎 敦 (Yamazaki Atsushi) (70510791)	中京大学・教養教育研究院・教授  (33908)	
研究分担者	中島 太郎 (Nakajima Taro) (70802867)	中京大学・国際学部・准教授  (33908)	
研究分担者	辻川 慶子 (Tsujikawa Keiko) (80538348)	白百合女子大学・文学部・教授  (32627)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計4件

国際研究集会 公開講演会「1840/1880 : le roman entre litterature populaire et culture mediatique (1840年から1880年へ 大衆文学とメディア文化の間の小説)」	開催年 2024年～2024年
国際研究集会 公開講演会「Retif de La Bretonne et la posterite romantique : George Sand, Dumas, Nerval, Eugene Sue (レチフ・ド・ラ・ブルトンヌとロマン主義作家 サンド、デュマ、 ネルヴァル、シュール)」	開催年 2023年～2023年
国際研究集会 国際シンポジウム「ロマン主義と第二帝政期の文学 (Le romantisme et la litterature du Second Empire)」	開催年 2023年～2023年
国際研究集会 国際研究会「フローベールとボードレール (Flaubert et Baudelaire)」	開催年 2023年～2023年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
フランス	Universite Clermont Auvergne クレルモン大学		
フランス	Universite Gustave Eiffel ギユスターヴ・エッフェル大学	Universite Paris 8 パリ第八 大学	Universite de Tours トウール 大学

共同研究相手国	相手方研究機関			
米国	University of Wisconsin ウィ スコンシン大学			
フランス	CNRS Lyonフランス国立科学研究 所			